

人間ドック健診施設機能評価 Ver.4 総合評価

施設名： 公益財団法人 筑波メディカルセンター つくば総合健診センター

受審施設の概要

つくば総合センターは、筑波メディカルセンターの健診部門として1994年3月に開設された。つくば駅から徒歩約15分、近くには中央公園、つくばエキスポセンターなどが隣接しており、周辺環境もたいへん良い施設である。年間の人間ドック受診者数は約26,000人（1日：25,900人、1泊：100人）、その他、生活習慣病健診や法定健診など約12,000人を受け入れている。2005年に初回認定を受け、今回が3回目の更新審査である。

第1領域 理念達成に向けた組織運営

施設の運営方針は確立されており、病院とは別に健診センター独自の「理念」、「活動方針」、「受診者の皆様の権利」を定め、施設内掲示やホームページ、パンフレットへの掲載、また、職員への周知も適切に行われている。

個人情報保護に関しても同様に明文化され、施設内掲示、ホームページ掲載され、内外への周知も行われている他、法人全体で個人情報保護に関する勉強会も開催されている。

就業規則等各種規程は、法人で体系的に管理されており、就業規則、職業倫理規程、職員の相談窓口（専用回線設置）、研修・出張規定も整備されている。なお、内容の見直しも定期的に行われており、職員は施設内のイントラネットでも詳細を自由に閲覧できる体制を整えている。

事業計画については、3年～5年を範囲とした法人の中長期計画が策定されている。健診センターとしての事業計画も毎年作成され、法人執行会議および理事会に承認を得た内容で運営が進められている。なお、職員への周知には独自の職員広報誌「TMC Now」でも計画の内容や進捗について伝えられている。事業の報告については年報が作成され、年度内に行われた主な実績や活動内容について内外に報告されている。

組織体制は法人全体として確立されており、各種の会議体系も明確に機能している。健康管理センター独自の改善や検討事項については健診運営会議がメインとなり毎月開催されているが、その他の各種委員会も機能し施設全体のより良い環境作りに取り組んでいる。

職員の体制は、常勤の健診専任医師の複数が人間ドック認定医、健診専門医を取得しており、それぞれが各専門医も取得し専門領域をカバーしている。また、各種の専門資格を有する医療職員や事務職員も十分な人員が配置され、良好な運営が行われている。

教育体制については、全職員および各種の専門領域に至るまで詳細な年間計画が作成され、院内勉強会の実施や外部の学会、研修会への参加も積極的に行われている。なお、勉強会に参加できなかった職員にはビデオ上映、また、研修会参加後には伝達講習会を行なうなど、全職員で情報、知識の共有化に努めている。医療分野に留まることなく、施設全体のレベルアップのために必要な幅広い教育分野に取り組む法人の高い姿勢は特筆すべき内容である。

医療安全管理体制については、法人委員会の他、健診独自でも委員会を設置し、マニュアルも整備されている。インシデントの報告や再発防止の取り組みも迅速に行われている。また、感染性および産業廃棄物や個人情報に関するデータ処理も適切である。なお、職員の健康管理、防災訓練も定期的に実施され、全体的に安全に関するマネジメントは良好に行われている。

情報の管理体制は、個別のパスワードによってアクセス制限が設定されており、緊急時の対応マニュアルも整備にされている。また、サーバ室はダイヤルロック式のドアで入退出の記録管理も適切に行われている。

薬剤、診療材料の管理は購買管理課によって定数管理が行われており、劇薬類の取り扱いも安全に管理されている。また、年2回の棚卸しも行われ、適切な在庫管理に努めている。

委託業務の管理は、マニュアルに沿って業者の選定、評価、定期的な見直しが適切に行われ、適宜、契約内容の更新を実施している。

高齢者や障害者等、配慮が必要な受診者への対応については、施設内のハード面はバリアフリー化され、車いすでの移動も容易である。また、聴覚障害の方には職員へのサインとなるカラーファイルを携帯してもらいフォローを加えるなど、細かな配慮に努めている。

外国人受診者については、日本語が困難な受診者には通訳を同伴いただくという受け入れ条件を定めている。また、各検査室には英語表記による案内板も設置されている。

第2領域 受診者中心の良質な健診の実践

企業・健保組合との契約関係は渉外担当者によって円滑に進められている。

予約・受付の業務は、マニュアルに沿って行われている。收受業務はダブルチェックされ、業務管理課長の最終確認を得て法人事務局の経理課に提出される。また、未収金チェックや会議での会計報告も適切に行われている。

人間ドック学会が提示する基本検査項目は全て実施されており、任意検査項目の検討も適切に行われている。

施設的环境は、受診者数に見合ったスペースが確保され、清潔で快適な空間である。面談室は個室化されており、計測等一部の検査はカーテンで仕切られたスペースで行われているが、プライバシーへの配慮は適切に行われている。

受診に関する事前の情報提供は、ホームページや事前に送付される書類によって、受診者へ十分に行われている。また、種々の問い合わせへの対応方法も、マニュアルとしてまとめられている。検査の安全性の確保のため、受診当日は、保健師による医療面接が最初に行われ、得られた情報は、システム内で共有される。施設は5階建てであるが、AED、救急カートは適切な場所に設置され、急変時対応の定期的な訓練も行われている。

精度管理体制は適切で、検査毎に責任者を置き、業務マニュアルに基づいて管理が行われている。外部精度管理サーベイへも参加し良好な成績を得ている。

検査結果の判定は、人間ドック学会の判定区分に基づき行われている。また画像の判定は、結果説明前に専門医による二重読影・比較読影が行われ、読影医師によるコメントもシステムで参照が可能である。

医師による結果説明は、当日にほぼ全員の受診者に対して行われ、説明内容は画像の結果も含めて実施されている。保健指導は、保健師21名、管理栄養士4名の体制で行われ、結果説明後にはほぼ全員に実施している。医師の結果説明、保健指

導のマニュアルが整備され、標準化した説明・指導を行う仕組みを構築している。システムに入力された記録は全職員が参照することができ、次年度の受診時にも参考にすることができる。

第3領域 継続的な質改善の取り組み

受診者の要望を把握する体制としては、ご意見箱と年に1回行う満足度調査がある。要望を検討し、具体的な改善を実施し、要望への回答の公表を積極的に行っている。

フォローアップについては、マニュアルが整備され、充実した形でしくみが構築されている。要精検率は、すべての項目で10%未満、精検受診率は平均で72.4%と優れている。

また、紹介状を当日に手渡しすることで受診を促し、定期的に受診勧奨の手紙を送付する等、受診行動に繋げるための工夫が続けられていて評価できる。併設病院や近隣の病院との連携は十分構築されている。なお、追跡検査のフォローアップについては、今後の課題である。

健診結果の分析は継続的に行われている。各種学会への調査協力をはじめ、日本人間ドック学会学術大会では、毎年複数の発表が継続されている。

受診者に向けた有用な情報提供としては、毎月開催されている「市民健康講座」、つくばみらい市での「健康フェスタ」等の講演で施設のデータを使用したがん検診の啓発も行われている。また、保健師・管理栄養士による「スッキリ通信」の発行など、さまざまなテーマを取り上げて健康増進への情報提供に努めている。

健康経営に向けた取り組みとしては、保険者、契約事業所が希望する健診データの提供や、産業医の担当も行っている。

業務改善の体制としては、受診者からの声を基に部署ごとの改善計画が策定され、実行に向けて個人目標も設定される。年3回の目標面談をとおり進捗確認も行いながら部署ごとの事業計画達成に向けた取り組みを実践している。

前回の指摘事項の内、健診システムのセキュリティ強化として、USBメモリ等、メディアの取り扱いは、所定の端末以外は使用不可とした。また、環境管理として、季節に応じた室温基準を設定し、フロアスタッフによる室温チェックを毎日行っている。

総括

人間ドックの充実にむけて、検査精度・結果説明・保健指導・サービスのバランスをとるために検討を続けている。人間ドック健診施設としての方向性についても、最新の情勢にあわせて常に見直しが行われており、その方針が職員にも浸透し体現できている。機能評価受審を改善に繋げるしくみができていることとあわせて高く評価したい。

総合的見地から、人間ドック健診施設機能評価の認定更新に値すると判断する。

委員会審査日 2018年10月11日

認定承認日 2018年10月27日